

オンドル構造の発展過程と日本への伝来に関する研究

○劉福姫* 田中辰明** (*お茶女大・院) (**お茶女大)

目的 オンドルの発展過程や背景を考察、オンドルが何故日本に伝わらなかったのかについて考える。

方法 文献および現地調査によってオンドル構造の時代的発展過程、オンドル形成の社会的背景、日・韓の文化交流の時代的特性、両国の気候特性などについて考察を行った。

結論 オンドル構造は一段階の炉時代、二段階のトール竈や暖房用炉の分離、三段階の火口が付いて排煙施設が設けられた坑道（一・一字形オンドル）、四段階の全床の坑道時代（在来式のオンドル構造の形成）と発展してきた。オンドルの形成過程の特色としては ①オンドルは寒い北方地域に起源をもち、②北から南へと進んだ経緯が推測される。③中世のオンドルは貧民の採暖方法として社会的に認識されていたため、上流階級はオンドルを取り入れることを体面上、抑えるという風潮があった。しかし、④ようやく18世紀になって上流階級までオンドルが伝播されたことが文献によって分かった。つまりオンドルの伝播は下層階級の文化を上流階級が獲得してきたことによりなされた。このことに基づいて日本にオンドルが何故伝わらなかったかということについては次のように考えられる。①両国の気候的側面が挙げられる。即冬の寒さより夏の暑さ、湿気対策の方が日本にとって重要な問題だったからではないかのことである。また②日・韓との交流の考察から両国の交流が活発に行ったのは A.D.5—7 世紀頃であり、この頃、オンドル構造は二段階から三段階への変化し始まった時期であり、まだオンドルが完成されていなかったということである。③オンドルは寒い北部地方の下層階級の採暖方法だったので日本はオンドルの受容にはあまり積極的ではなかったということも考えられる。